

日経MAC

NIKKEI MAC

[特集1] 愛される8の理由

I Love iMac

SEPTEMBER
9
1998

[特集2] 知って得する意外な常識

インターネットQ&A

[特集3]

カラーレーザーの時代が来た

Mac OS 8.5がやってくる 互換機, G3生き残り作戦

パーソナルCD-R — 何でも安心バックアップ
変わり種Winソフトをエミュレーターで堪能
いんさいどまっきんとっしゅ「ファイル・システム」
アニメ制作現場で活躍するマック
モダンホスピタルショーで人気のアップル

[新製品速報]

Power Mac G3 MT333/DT300/DT266
G3カード Performa 64xx/54xx用BOOSTER
FD型スマートメディア・アダプター Flash Path ほか

付録 CD-ROM

スクリーンセーバー用iMacベストフォト
Adobe Photoshop 5.0J試用版
Netscape Communicator 4.5PR1(英語版)
製品版にアップグレード可能 Eudora Pro 4.0J ほか



プロダクト・デザイナーの“左腕” Power Mac 9500/132

潔くて美しい物を、 安く沢山 出したいんだ

サカイ デザイン アソシエイツ 酒井俊彦



デザインのいい物を、沢山の人に、普段の生活の場に置いて使ってもらいたい。プロダクト・デザイナー、酒井俊彦は、クリエイター同士の出会いの場、作品発表の場をインターネット上に提供し、そこで、自身や彼らのデザインしたプロダクトを安価で販売している。

製図台の使いづらさに辟易（へきえき）していた左利きの彼にとって、マックはまさに出会うべくして出会った相棒。東京・西麻布の事務所を訪ねた。

（文中敬称略）

撮影：金澤篤宏



左利きだけど、マウスを握る手は右。「最初に使うパソコンって他人のだから、自然にこうなるよね」と。右にマウス、左にペン。何だか得してるように見える



美大の教授の「スケッチは見せるものではありません」という言葉が、今も何だか心に残っている。途中の段階は、他人には見せない。いつも、最終成果物だけが、空気に触れる

「製図台って、右利き用にできてるから大変なんです」。酒井の利き腕は左。駅の改札、急須、ハサミ、ゴルフの練習場…、普通に暮らして左利きが不便を感じる場面は山ほどあるけれど、それがプロの道具と来るとは、笑い事では済まない。無理な姿勢からでは、きれいな線を引くのもひと苦労だし、せっかくな線画を自分の手でこすって汚してしまうこともある。

この悩みを解消してくれたのがマックだった。ラフ・スケッチを3Dソフトの「form-Z」で立体にする。ワイヤー・フレームにテクスチャを貼り込んでクライアントへのプレゼンにする。このデータを下絵にして、線と寸法を2次元CADソフトで精細に書き直し、図面にする…。利き手に関係のないパソコンの使用で、作業効率は上がり、スケッチにより、多く時間をかけられるようになった。自然、作品のクオリティーも上がる。

“普通” が一番難しい

笑顔の形のカラフルなフックや、流線型が美しいターミネーター。スケルトン素材のエアコ

ン、赤くて丸い大きなボールと不思議な形の藤細工でできた“イス”。洗練されているけれど決して排他的ではない。酒井がデザインした物はどれも、見るだけでなく、思わず手で触れてみたくなるような人なつこい姿をしている。

彼の仕事は、こうしたプロダクト・デザイン

パソコンの中にクオリティーはない。

から派生し、音楽スタジオのインテリア・デザイン、テレビ番組のオープニングCGの製作…と多岐にわたる。自分自身だけのための作品ならともかく、受注した製品デザインには、さまざまな制約が加わる。予算やユーザーの好み、クライアントの思惑、「どのみちデザインは妥協の産物」だけど、凝ってなくていいから潔い美しさを持った物を作りたい、沢山の人の手に長く使っ



サカイ デザイン アソシエイツ 酒井俊彦 (Sakai Toshihiko)

1964年 高知県生まれ。1987年 東京造形大学卒業。1991年 通産省選定グッドデザイン賞、1994年 アビターレイルテンボ展出品（イタリア、ベローナ）、1995年 1995 デザインの現在展出品（カナダ、トロント）。

「かもめのジョナサン、星の王子様。あと『開発物語』みたいなものも好き」。友達同士で会社を作って成功する物語、小さなデザイン会社とメーカーがバイクのデザインを変えていくドキュメンタリー…。「何でもかんでも1人でやっちゃうより、そういうのが好き」



工業製品はともかく、家具なら実物大の図面を職人さんに渡しちゃう。職人さんは、それを「型紙」にして、そのまま材料を切るのだとか

左で製図を引いてた

不器用な手つきで。

てほしい、という思いは常に貫いて心にある。

パソコンやら電気釜やら、形が“ジムジム”して遊び心のない物、機能美とはかけ離れた醜悪な物、ゴージャスを装った安っぽい物。そういうプロダクトがあまりに多い。「特別である必要はない。ただ普通にいい物を生活に取り入れるのに、日本はお金がかかりすぎる」。それをどうにかしたい。「プロダクトの人間にとって、はマスに向けていい物を売るのが1番の幸せ」。だから、たとえば10万円台で質と実の両方が手に入る、格好にお金を出さなくても格好がついてくるiMacのような製品には心魅かれる。

2万6千円のソファー

どれほど低コストでいい物を作っても、流通に乗り、店頭で並んだ瞬間、驚くほど高額な値がつく。そこが納得いかない。インターネットにデザイナーのネットワークを作り、そこで彼らがデザインした家具や照明器具といったプロダクトを低価格で販売し始めたのには、そんな理由がある。若いクリエイターに発表の場を提供したい、インターネット通販が流行っているのを横目で見て「ほんとに売れるか試してみたかった」のもある。1996年の始めのことだ。

ページを開設して約1カ月。初めてイスが売れた時は「事務所中、大騒ぎになった」。実際に触れられるわけでもサイズが実感できるわけでもない物を買ってくれた驚き、喜び。買ってくれた人とは今も文通を続けている。

その後、「ポツポツ物は売れ、ポツポツ人は集まり」、海外のサイトとリンクができたり、酒井の考えに賛同して製品を安く置いてくれる家具

店も出てきた。

年内には、60年代生まれのクリエイターを集めたサイトという側面を押し出して、リニューアルを計画。デザイナーの集まりはいくつもあるけれど競争や利権が絡むことがあまりに多い。そうではなく、若いデザイナー同士、ただの横のつながりを作りたい。手間もお金もかからない、パソコン上のことだから……って言ってしまえるインターネットなら、そういう気さくでフラットな組織が可能なのではないか、と思っている。

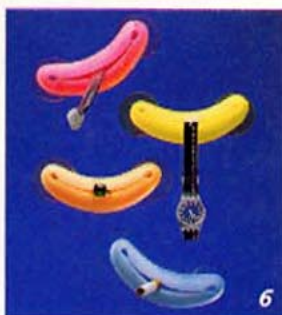
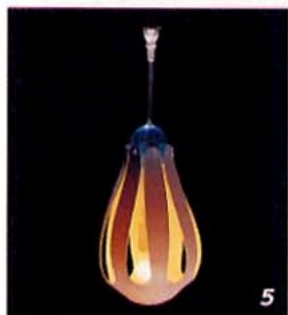
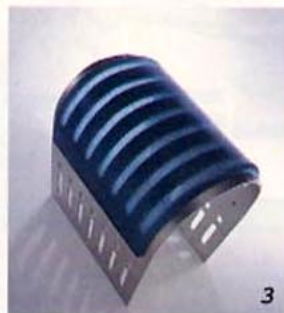
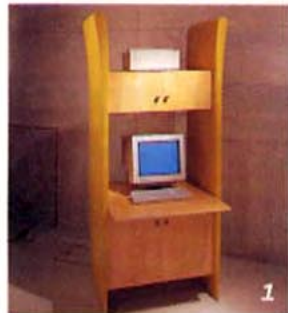
涙、出ちゃうような職人芸

ラフ・スケッチは、いっぱい、いっぱい書く。それを5点ぐらいに絞って、4〜5日寝かせる。「恋愛と一緒に。熱が冷めても、この人とならやってけるって思える人もいれば、やっぱり考え直そうって人もいるでしょ? (笑)」。

彼の場合、マックの登場は、その後だ。「僕の下世代のデザイナーにはスケッチもせず、いきなり画面上で作り始める人も多い」。自分に

インターネットで





1.パソコンラック 2.ペーパーホルダー 3.ドッグハウス(スツール) 4.ロジックMOドライブ 5.タコライト 6.スマイル(フック) 7.バースツール 8.シェーズロング

は理解できないけれど、「なんで？」と口にしたりはしない。「自分自身、先輩達に製図は手で引いてなんぼ、線の美しさが命、と言われて来た」からだ。それできちんとした物ができることはあると思うし、彼らにとって、今やパソコンは紙と変わらないんだな、とだけ捉えている。

ただ、「どんなに3Dできちんと作っても、それはウソの世界」であることに変わりはない。生地縫製の精巧さ、そういうクオリティーはパソコンの中にはない。言葉少なに無理難題をこなす職人の、見る人が見たら涙でるよね、

というような仕事ぶり。彼らとのコミュニケーションなしに最終形を得られることはないからだ。

素材のニュアンスもディスプレイ上には決して現れないものの1つだ。「この赤い玉も、黄色いプラスチックとかだと全然違うでしょ?」。素材だけで「普通な感じ」にしたいくて、台座の藤細工を抱え、ユザワヤ(生地専門店)で、1日中、野暮ったい生地を探した、と笑う。

無意識にデジタルとアナログのバランスを取っているのだろうか。昔は「デザイナーは手を動かさない派」だった。もちろん美大卒だから手は動く。塗装もするし、木も削る。ただ、立ち入らないほうがいい領域かな、と思っていた。けれど、最近では「こういうふうにしてほしい」と自分で巨大な発泡素材を削って職人に見せたりもする。理由はいろいろあるけれど、「マックを使い始めてから、何度も消して書くというアナログの作業が大幅に減った。きっと、そういうことが知らず知らず関係しているんだろう」と考えている。

(加藤 小也香) **NMAC**



イスが売れた日。



デザイナー同士、横のつながりを…と続けている Design Net Japan ホームページ (<http://www.kt.rim.or.jp/~d-net/>)。「デザインのいい物を、安い値段で、若い人に使ってもらいたい」と考えたのが最初だった。参加者は無名の若手から内田繁氏といった大御所まで幅広い